

横浜市介護支援専門員連絡協議会 連絡協議会議事録

会議名	平成 29年度 第 2 回定例会		
開催日時	平成 29 年 6 日 16 月(金)	19:00~20:45	開催場所 横浜市社会福祉センター8 階
	1	情報提供	
	2	役員、区代表、サポート幹事の紹介	
	3	自主勉強会について	
	4	H29 年度総会報告	
	5	各委員会報告	
	6	連絡事項	

No	議 題	内 容
1	情報提供	<p>◆「発災時における利用者の安否確認について」</p> <p>横浜市健康福祉局地域福祉保険部 福祉保健センター担当課長 鈴木 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、熊本地震を受けて横浜市では災害発生時への要援護者への取り組みの検討を行っている。昨年度は、役所内での協議、今年度は福祉事業所を含めた協議の場をもち、横浜市の仕組みづくりを進めていきたい。 ・現状として市内には約 124000 人の要援護者がおり、元禄型関東地震クラスの震災があった場合、そのうちの約 20000 人程度の要援護者が特別避難場所などへの避難を迫られるようになるとの試算がある。 <p>【主旨】</p> <p>大規模災害発生時に現状の地域防災拠点→特別避難場所・受け入れ施設の流れては対応に限界がある。もう一つの支援ルートとして(できる範囲で)ケアマネが直接受け入れ施設などへの調整ができるかどうかなどの可能性を模索している。</p> <p>Q.ケアマネは在宅要援護者の安否確認ができるか？</p> <p>Q.区役所につなぐ、または直接施設入所などの調整を行うことは可能か？ (施設側にも災害時は定員を超えても受け入れを行ってほしい旨の依頼はしている)</p> <p>◆YCM からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認はできる範囲では当然行いが、伝達方法など課題は多い。 ・東日本大震災の時は多くの市内のケアマネが安否確認をしたと思う。今後大規模な災害が発生した際には、事業所に来ることが出来ないなど、自分自身も被災している事を前提に考えていかななくてはいけない。 ・自社のルールとして、毎年ご利用者の名簿を紙で出しておくようにしているが、その先の行動が課題。 ・自分は自宅から職場までは遠いので、大規模な災害があった場合は事業所まで駆けつけることは恐らく難しい。であれば災害ボランティアのように、それぞれの自宅近くで自分の職業の専門性を発揮できるような仕組みの方が現実的ではないか。 ・地域との情報共有とネットワークの構築が先決。地域では防災ネットワークの構築に力を入れているが、ネットワークにはケアマネジャーが入っていない。今後、防災ネットワークに福祉関係者が入っていけると良い。 ・連絡体制が確立していれば直接施設への調整も可能だと思う。 ・区によってはアマチュア無線などの独自の連絡方法を模索しているところもある。 ・防災無線などは活用できないか。地域包括支援センターにも防災無線を配備すればよい。 ・受け入れ機関としては、地域防災拠点やケアマネなど色々なところから情報が

No	議 題	内 容
		<p>集まるのはどうなのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フローチャート案には、地域防災拠点とCMのつながりが明記されていないが、あえてバラバラでの活動ではなく、連携する方が効率的だと思う。 <p>◆鈴木 課長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絶対にケアマネがやらなくてはいけない」ではなく、今までの地域防災居拠点から受入れ施設という一つだけの支援ルートに、ケアマネができる範囲で加わることが出来るという事を行政も認識をしていくことで、次の支援方法確立につながる。
2	役員、区代表、サポート幹事の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・役員、区代表、サポート幹事それぞれの自己紹介
3	自主勉強会について	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー自主勉強会について <p>H27年当時、YCM定例会の場において「自主勉強会については、名称のとおり、あくまで自主的な勉強会であり、YCMの活動としては公認しないが、勉強会の周知は協力する」との見解に至るが、「協力」という言葉の認識のずれが、今回の問題になったと考えられる。第12回予定の自主勉強会に関しては下記の問題が生じている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 開催案内にYCMの名称が入っており主催、共催の誤解をまねく恐れがある。 ② 加藤代表の承認のないまま、(①に関しても)「研修受講証明書」に加藤代表の氏名、YCMの押印があり、YCMとして研修の受講証明を行っていることになっている(受講証明に関しても主任介護支援専門員研修の対象要件に当てはまる根拠がない)。 <p>H27年当時、YCMに参加されていた役員や区代表にも経緯を定例会の場において再確認。</p> <p>今回の定例会の場で討議した結果、</p> <p>「自主勉強会自体が総会の場において活動報告、活動(案)として、図られていない」ため、YCMの活動として認めない結論となる。</p> <p>したがって、受講証明書や開催案内や資料等にYCMの名称、代表者名、代表者印やYCMの押印の使用も差し控えてもらうこととなる。</p>
4	H29 年度 総会 報告	<p>渡會実行委員長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/24(水)218名の参加。一般の参加者も多数あり。都筑区に行事終了届を提出予定。 ・初めて委員を担当し段取りが分からなかった。例年同じような課題があるため、「引き継ぎ書」を作成し、総会の事前準備等の流が分かる仕組み作りを行いたい。 ・総会の議事録を作成してあるが、誰が保管すればよいか。 <p>次年度は東部ブロック</p>
5	各委員会報告	<p>◆制度対策委員(佐藤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「病状進行の早い末期がんの方への対応についてのデータ提供のお願い」→各区1部程度で良いのでデータ提供をお願いしたい。サイボウズに書式アップ予定。 <p>◆広報委員会(橘川委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイボウズ H29 年度役員招待中。 ・YCMピンバッジ残り200個程度。HP上で販売の案内、販売受付を検討。YCMのHPで購入受付→各区代表からお渡しという方法を検討していたが、区の連絡会に加入していない人もいるため、区代表が直接手渡しをすることは難しいとの意見もあり、HPを活用した販売に関しては再度検討する事となる。 <p>◆会計(佐藤直氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会への交通費に関して、バス代、定期区間は含まれない。また、交通費が予算の大部分を占めているので少しでも削減できるようにICか現金か安い方で申告してほしい。 ・各区の会費を次回以降納入してほしい。 ・協賛団体→29団体

No	議 題	内 容
		<p>◆事務局(佐藤洋 氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会来賓お礼状発送 ・5/9 県協制度改正調査研究委員に出席。 ターミナルケアアンケートを作成中。神奈川県内の居宅介護支援事業所にアンケートが送付される。→秋頃までにはアンケート集計作業に入っていく
6	連絡事項	<ul style="list-style-type: none"> ◆「第 10 回日本在宅薬学術大会」シンポジウム演者の依頼あり。→辞退 ◆南関東ブロック研究大会 <ul style="list-style-type: none"> ・H30 年 1 月 20 日 健福センター 予定。 運営委員:加藤代表、角田副代表、植村氏、金子氏、田中氏。 YCM ではなく一ケアマネ として運営委員として参加。 ◆横浜市訪問介護連絡協議会との合同研修 <ul style="list-style-type: none"> ・H29 年 9 月 20 日 健福センター ◆その他 <ul style="list-style-type: none"> ・県協理事、H28 年度までは原田氏であったが H29 年度以降は加藤代表に変更。